



この街が好きだから

武蔵野スケッチ物語

絵と文
大須賀一雄

86

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

西久保二丁目にて

この作品は、西久保の井ノ頭通りと斜めに交わる三谷通りの近くで、西を向いて描いたものである。この場所は、以前から描きたいと思っていた所なので、今回描くことができて、良かったと考えている。

ところで、私は武蔵野市に50年以上住んでいるが、いつも住み心地の良い所だと思っている。それは、市街地の割に緑が多く、また春には桜、秋にはイチョウなどが季節の変化を楽しませてくれ、また市内の吉祥寺に行けば、容易に買い物やレジャーも楽しむこともできる。毎年行われている全国の住んでみたい場所のランキングで、吉祥寺がいつも上位につけていることもうなずける。

最近では、写生中に声を掛けてくれる方々の中で、「季刊むさしの」で私のことを知っている方が増えてきていることを実感し、とても励みになっている。これからも、市内を巡り、皆さんに楽しんでいただけたような作品を描いていければと考えている。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。